稚内南小学校
「教科の学びの本質に迫るICTの効果的な活用及び学びの転換を図った授業づくりについて」

理科専科担当教諭

担当している学年について

- 稚内南小学校４年生

どの単元でも意欲的に取り組み、理科に苦手意識がある児童も友達と協力しながら学習に励んでいる姿が多くある。

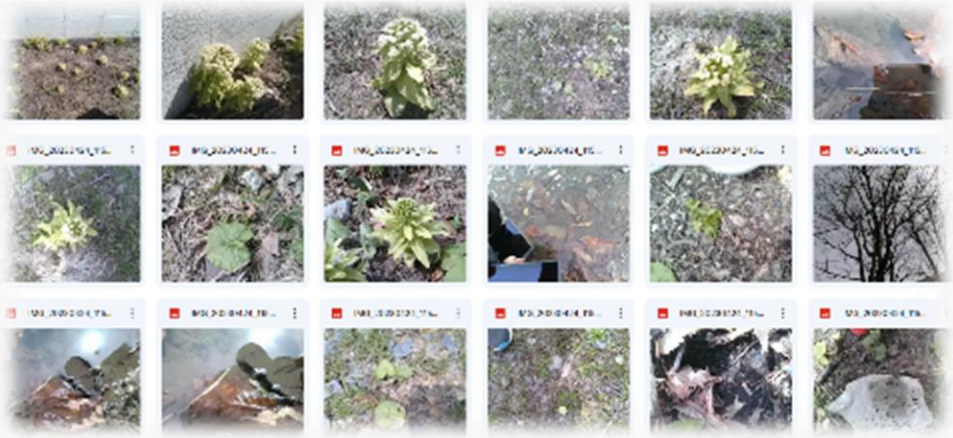
- 稚内南小学校６年生

自分の考えやタブレットなどで調べたことを上手にまとめることができる。また、実験中に色々な発見をすることができる。

- 稚内港小学校６年生

「こうやったらうまくいくんじゃないか」など、自分たちで実験方法を考えることができる。学力差があるので、具体物などを使って、理解しやすいよう心掛けている。

各学年のICT活用などの実践について



- ４年生

・実験しているときにタブレットを使って撮影→後から振り返ることができる。

・虫や植物などの観察も多いので、写真を撮って全体で共有できるようにしている。

・実験の予想をグーグルクラスルームに投稿し、みんなで予想したりしている。

- グーグルフォームのテスト機能を使い、自分がどこを間違えたのか振り返る。また、何度でもやり直しができるため、間違えた所をもう一度やることもできる。

※子どもも、「もう一回やってみる！」と意欲的に取り組んでいる姿が多くある。自動採点もできるので、すぐ結果が見られる。

※単元によって、プリント学習を行うこともある。

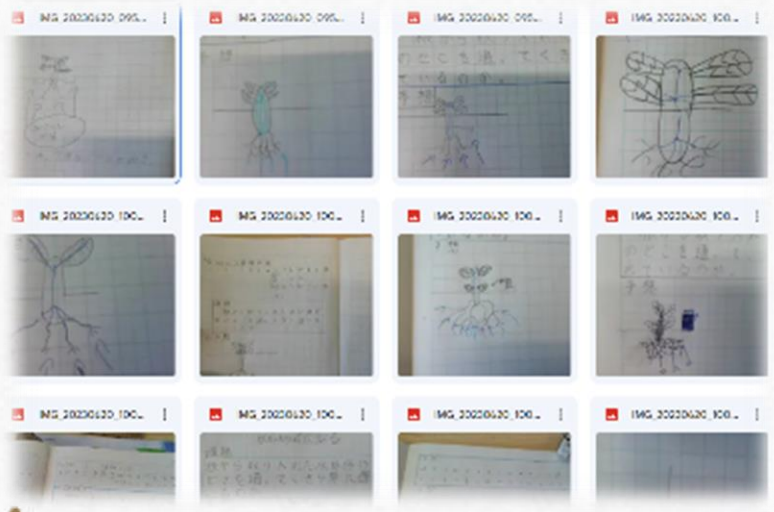
- ６年生

・調べ学習を中心に使い、自分たちで調べたことをノートまとめている。

・グーグルのクラスルームを使って、ノートにまとめた実験の予想を撮影し、共有している。

・カフートというソフトを使って、クイズ形式で単元の復習をしているときもある。

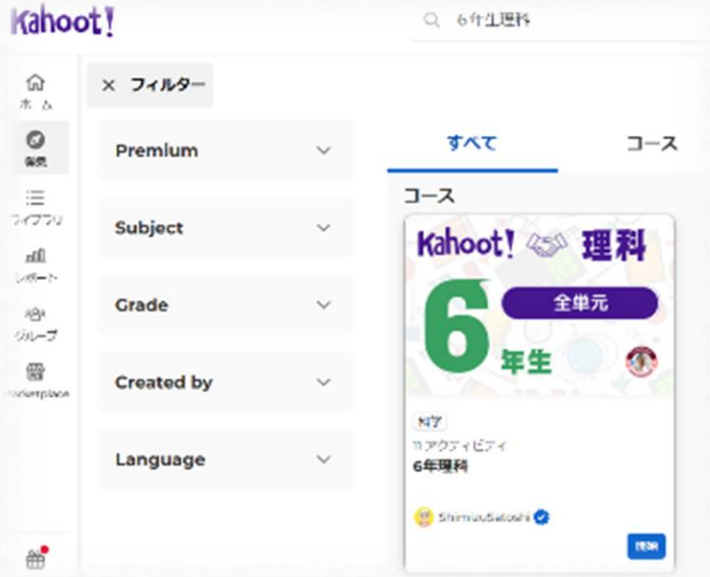
・マイクロソフト（の）フォームスを使って学習の振り返りをする。



- 実験の予想を立ててから、写真を撮り、グーグルクラスルームに入れ、共有している。

※子どもたちからも「自分の予想と違う！」など、様々な反応がある。これをもとに、どんな実験をしたら、予想を確かめられるか、子どもたちで考えさせている。

- カフート・・・クイズ形式で問題を出題しているソフト。個人の結果もわかり、どこを苦手にしているかも把握できる。



- 稚内港小学校６年生

・調べ学習を中心に使うことが多い。また、ジャムボードを使って実験結果などを全体で共有し、その考えをもとにポイントなどを押さえたり、定着につなげたりしている。

・自分達で実験の予想を立て、自分達で実験を考えている姿もある。

課題

（ICT）

- 調べ学習や実験を撮影したりはしているが、実験結果をタブレットを使って子どもたち同士でまとめるなどの場面が少ない。
- 指導者側がICTの活用について、研修などに参加し、子どもたちに還元していく必要性を感じている。

（授業）

- 子どもたち同士で問題を見出したり、その問題を解決するための方法などを子どもたちで見つけ出せるような授業展開。
- 必要感を持たせて学習に励むことができるような指導の工夫。
- 指導者主導ではなく、子ども主体の授業づくり。

今後について

- 子どもたち同士で結果を共有したり、結果をまとめることができるよう、ICTを有効活用していきたい。
- 話し合い活動などを多く設定するとともに、子どもたち主体の学習ができる学習内容、それを踏まえたICTの活用方法を考える。
- 「問題、課題の設定」→「解決するための方法」→「実践」→「考察」→「振り返り」が子どもたち自身でできる授業に近づけるよう努力していきたい。